



Dance Box

Press Release 2013.11.22

KOBE-Asia Contemporary Dance Festival #03

神戸-アジア コンテンポラリーダンス・フェスティバル #03

プレスリリース 資料

(2013年11月22日 現在)



2014. 2. 1～3. 2

「私たちの住処はうごめき、また日々生成される。」
(それとも私の体がグログロするからそう見える?)

“My Home is Shivering and Changing.”
(or is it Me and my Body wriggling?)

主催:NPO 法人 DANCE BOX

問合せ先:〒653-0041 神戸市長田区久保町6丁目1番 アスタくにつか4番館4階

TEL:078-646-7044 / FAX:078-646-7045

広報担当:大泉愛子・青嶋絢

広報担当メール:pr_mail@db-dancebox.org

Dance Box代表メール: mail@db-dancebox.org (制作担当:横堀ふみ)

【目次】

開催にあたって	_____	P3
開催概要	_____	P4-5
プログラム概要	_____	P6
公演・展示プログラム詳細／スケジュール	_____	P7-9
ディレクター・ノート	_____	P10-11
アーティスト・プロフィール	_____	P12-16
問い合わせ先	_____	P17

【開催にあたって】

この度、Dance Boxでは、2014年2月1日(土)～ 3月2日(日)の期間、神戸-アジア コンテンポラリーダンス・フェスティバル#03「私たちの住処はうごめき、また日々生成される。(それとも私の体がグログロするからそう見える?)」を開催する運びとなりました。2001年に始動した「アジア・コンテンポラリーダンス・フェスティバル」は、2014年に第8回目を、また神戸での開催としては第3回目を迎えます。当フェスティバルではこれまでに、アジアおよび日本で活躍するアーティストの身体表現を通して、多様な価値観が混在しながら共生するアジアの〈現在〉を紹介してまいりました。神戸にアジアのコンテンポラリーダンスを集積することで、アジアから生まれる新しい価値観、世界観の創出を志向し、将来的にアジアのダンスにおけるひとつの拠点となることをめざしております。

今回のフェスティバルでは、近年、国内外での活躍が目覚ましいパフォーマンス・グループ contact Gonzoの主要メンバーである塚原悠也がプログラム・ディレクターを務めます。塚原は、contact Gonzoの活動にとどまらず、一人のアーティストとして身体表現から現代美術、音楽など、さまざまな分野の国内外のアーティストと交流を続けてきました。今回のプログラムでは、塚原ならではの視点によるディレクションで、彼がこれまでに出会ったアジアのアーティストたちとともに、新作パフォーマンスを創作、上演いたします。

フェスティバルには、日本・アジアを拠点に世界各国で活躍するアーティストたちが参加します。身体表現、演劇、美術、音楽といった多様な芸術分野で活躍するアーティストが、プログラムごとに3人ずつのチームを組み、対話、交流を積み重ねながら作品を作り上げてゆきます。このような試みは、舞台芸術フェスティバルでは稀少な、新しい取り組みといえるのではないのでしょうか。また、パフォーマンスに加え、参加アーティストによる展覧会を、京阪なにわ橋駅アートエリアB1を会場に企画いたします。パフォーマンスと展覧会を同時開催することで、個々のアーティストと新作パフォーマンスを繋ぐ回路として、フェスティバルをご覧頂けると考えております。

アーティストが国境を自由に行き来し、ジャンルを越えて創作を行う時代、ダイナミックに流動するアジアの表現とはどのようなものでしょうか。ぜひ、多くの方々に、当フェスティバルをご覧頂きたく、広報方、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

神戸-アジア コンテンポラリーダンスフェスティバル #03

主催:NPO 法人 DANCE BOX

【開催概要】

○ 名称：神戸-アジア コンテンポラリーダンス・フェスティバル #03
 (英語表記: KOBE-Asia Contemporary Dance Festival #03)

○ 開催期間: 2014年2月1日(土)~3月2日(日)

公演日時:

A プログラム: 2014年2月15日(土) 19:00, 16日(日) 17:00, 17日(月) 20:00

B プログラム: 2014年2月21日(金) 20:00, 22日(土) 17:00, 23日(日) 17:00

展示会期: 2014年2月1日(土)~3月2日(日) 12:00-19:00 ※月曜休館

○ 会場:

■ 公演会場: ArtTheater dB神戸

〒653-0041 神戸市長田区久保町6丁目1番アスタくにづか4番館4階

TEL:078-646-7044 / FAX:078-646-7045 HP: <http://www.db-dancebox.org>

■ 展示会場: アートエリアB1

〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-1 京阪電車なにわ橋駅地下1階

TEL: 06-6226-4006 / HP: <http://artarea-b1.jp>

一会場アクセスマップー



○ チケット情報:

2013年11月26日(火)より 前売券 発売開始

一般:前売3,000円/当日3,300円

25歳以下・障がい者・介助者:前売2,500円/当日2,800円

長田区民:2,000円(前売のみ)

A+Bプログラム通しチケット(前売のみ):5,000円

※受付開始は開演の45分前、入場整理券をお渡しします。開場は開演の20分前、入場整理券の番号順にご入場いただきます。

※展覧会は入場無料です。

○ チケット取扱い:NPO法人 DANCE BOX 事務局 (電話・WEB予約)

住所:〒653-0041 神戸市長田区久保町6丁目1番アスタくにつか4番館4階

TEL:078-646-7044 / FAX:078-646-7045 HP: <http://www.db-dancebox.org>

JCDNダンスリザーブ(オンラインチケット予約) <http://dance.jcdn.org/>

○ 開催クレジット:

主催:NPO法人 DANCE BOX

助成:文化庁 平成25年度劇場音楽堂活性化事業/神戸市 平成25年度まちの再生・活性化に寄与する文化芸術創造・創作支援助成/平成25年度一般社団法人 私的録音補償金管理協会 sarah/公益財団法人 福武財団

後援:長田区/神戸市/神戸新聞社/ラジオ関西/サンテレビジョン/NHK神戸放送局/在大阪タイ王国総領事館

協力:維新派/precog/ミヅマアートギャラリー/PANTALOON/ミミヤママシン

展示共催:アートエリアB1【大阪大学+NPO法人ダンスボックス+京阪電気鉄道(株)】

スタッフ・クレジット:

プログラム・ディレクター:塚原悠也

NPO法人DANCE BOXスタッフ:大谷燠、文、横堀ふみ、田中幸恵、西岡樹里、下村唯

広報:青嶋絢、大泉愛子/宣伝美術:松見拓也/イラスト:みかじり/WEB制作:内山大

翻訳:青嶋絢、勝冶真美/舞台監督:大田和司/照明:三浦あさ子/音響:西川文章

【 プログラム概要 】

- プログラム・テーマ:「私たちの住処はうごめき、また日々生成される。」
(それとも私の体がグログロするからそう見える?)

“My Home is Shivering and Changing.” (or is it Me and my Body wriggling?)

技術と思想の「往来」を扱う、パフォーマンス・フェスティバル。

日々まれる静かな疑問を、ひとつひとつめくっていくことによって、たどり着いた作家たちのセッションを扱う。

「静かな疑問」とは例えば自分の部屋の中だけでもたくさんあり、表面上は何て事は無いことなのだが、背後にその原因となった膨大な歴史と現実の出来事がうごめいている。

それによって生活の中で感覚が揺らされる(べきであろう、立てないくらいに)。

そういうフェスです。

- プログラム・ディレクター:塚原悠也 / Yuya Tsukahara (contact Gonzo)



1979年生まれ。大阪市在住。2002年よりNPO DANCE BOXのボランティアスタッフを経て、運営スタッフとして勤務。06年よりダンサー垣尾優とともにcontact Gonzoを立ち上げ、公園や街中で「痛みの哲学、接触の技法」を謳う、即興的な身体の接触を開始。これまでにニューヨーク近代美術館(MoMA)やPANORAMA Festival(リオデジャネイロ)などをはじめ、他にヨーロッパ各国でのダンスフェスティバルに招聘多数。国内では「六本木クロッシング2010」や国立国際美術館「風穴展」、YCAM10周年記念事業などの現代美術展にも参加し、映像、写真、日記などを組み合わせたインスタレーション作品を発表。関西学院大学大学院 文学部 美学専攻修士課程修了。

ーフェスティバルが創出する3つの”場“ー

フェスティバルでは、公演・展示プログラムを制作・発表する過程で、次の3つの場を創出することを目指します。

①メディアを横断・融合する「インターメディアの場」

今回のフェスティバルでは、コンテンポラリーダンスを「パフォーマンス」という大きな枠から捉え直します。建築、美術、写真、音楽等の異なるフィールドで活躍するアーティストと協働し、公演および展示活動を通して、メディアを横断・融合するインターメディアのための場を創出します。

② アジアをキーワードに、世界のダイナミズムを語り合う「思考の場」

世界を見渡すと、領域を越えて「人々が移動すること」、「物や知識、技術、記憶が伝わること」、そして「根付くこと」という歴史のダイナミズムが存在します。その端々に「アジア」という事象を確認しながら、「ダイナミズム」そのものをフェスティバルの思考の核として、表現者たちと「現在」について語り合う場をつくります。

③ アーティストの視点から、現代社会における現象を捉え直す「表現の場」

今回、プログラム・ディレクターをアーティストでもある塚原悠也(contact Gonzo)が務めます。アーティスト独自の視点から社会におけるさまざまな現象を捉え直すことで、新たな視座で現代社会の位相を鋭く切り取り、表現する場となることを追求します。

【公演プログラム詳細／スケジュール】

今回のフェスティバルでは、4つの新作プログラムを上演いたします。プログラムの編成にあたり、ディレクターである塚原は、身体表現、演劇、美術、音楽など、多様な芸術分野のアーティスト12組に声をかけ、異なる分野で活動する3組を1グループとして、4グループを編成しました。アーティスト達は、互いに対話・交流を重ねながら共同作業で創作を行い、すべてのプログラムには、準備段階から塚原がキュレーター／助言者として関わります。発表される4作品は、いずれも新作・世界初演となります。バックグラウンドの異なるアーティストの表現の交差点から、どのような作品が生まれるのでしょうか、ご期待ください。

※各アーティスト・プロフィールはP12-15参照。

会場：ArtTheater dB KOBE(神戸市長田区)

Aプログラム：2014年2月15日(土) 19:00, 16日(日) 17:00, 17日(月)20:00

「岡田利規 × 曾田朋子 × Pichet Klunchun」／「contact Gonzo × Skychurch × 西光祐輔」

※2作品連続上演。

※受付開始は開演の45分前、入場整理券をお渡しします。開場は開演の20分前、入場整理券の番号順にご入場いただけます。

岡田 利規/Toshiki Okada(劇作家・演出家・小説家・チェルフィッチュ主宰／熊本在住)
曾田 朋子/Tomoko Soda(造形作家／大阪在住)
ピचे・クランチェン/ Pichet Klunchun (ダンサー・振付家／タイ・バンコク在住)

舞台作品を作り、さまざまな土地へ出かけては人々に見てもらうことを生業とする岡田利規とピचे・クランチェン。たくさんの旅をこなす一方、震災を機に岡田は横浜から熊本へと引っ越し、ピचेは大工だった父の事を思い出しながらバンコク郊外で劇場とスタジオを作るために自分で大工仕事をしている。曾田朋子は大阪のアトリエで、独自に発想した手法でひたすらミシンを動かし、帽子等の日用品と自身の作品をつくる。岡田は「身体も住まいだ」という。身体・服・家。日々暮らす事、またそれを繕う事、それを通して生み出される、新しい、次の時代の表現の形。

※「DANCE BOX Resident Program2013」参加 平成 25 年度 文化芸術の海外発信拠点形成事業

contact Gonzo/コンタクト・ゴンゾ(パフォーマンス・グループ/大阪在住)
スカイチャーチ/Skychurch(ハードコアバンド/フィリピン・マニラ在住)
西光 祐輔/Yusuke Nishimitsu(写真家/東京在住)

激しい肉体のぶつかり合いや殴る、乗るなどの接触行為をパフォーマンスへと昇華するcontact Gonzoがネット上で見つけ出しセッションを希望した、マニラのハードコアバンドSkychurch、エモーショナルなざらつきとスピード感のある写真作品を生み出す西光祐輔が新たな形のモッシュを提示する。インターネットが高速化することと比例して、かつて無い速さで音楽がやり取りされる。敢えてオールドスクールに立ち戻らなければ、ヒップホップ、ハードコアなど様々な音楽の西と東の差がどんどん無くなっている状況もある。そんなことは無いだろうと聞いてみると、音の湿度が違うようにも思える。物質としての写真にも同じことが言える。情報と身体がクロスする現場で汗と血(?)が流れる。

Bプログラム:2014年2月21日(金) 20:00, 22日(土) 17:00, 23日(日)17:00

「垣尾優×ジュン・グエン=ハツシバ×松本雄吉」／

「アニマル・ポップ・ファミリー×QUICK×DJ \$HIN」

※2作品連続上演。

※受付開始は開演の45分前、入場整理券をお渡しします。開場は開演の20分前、入場整理券の番号順にご入場いただきます。

垣尾 優/Masaru Kakio(ダンサー・振付家／大阪在住)

ジュン・グエン=ハツシバ/ Jun Nguyen-Hatsushiba(現代美術家／ベトナム・ホーチミン在住)

松本 雄吉/Yukichi Matsumoto(演出家・維新派代表／大阪在住)

近年、島と海、またその歴史や航路の在り方への多大な興味を作品化する松本雄吉、ベトナム人の父と日本人の母を持ち、船や走ることによって移動する事を扱うプロジェクトに数多く関わるジュン・グエン=ハツシバ、根拠を悟らせない即興的判断を重ねて行く事によって時間をつなぐダンサーの垣尾優ら三者によるコラボレーション企画。今福龍太の著作などをヒントにここ数年、松本雄吉と塚原の間で交わり、徐々に構成された。そのような世界観を構築するにあたりキーとなる作家として美術家のグエン=ハツシバ、ダンサーの垣尾優に参加を要請、コラボレーターとして共にクリエイションを進める。

※「DANCE BOX Resident Program2013」参加 平成 25 年度 文化芸術の海外発信拠点形成事業

アニマル・ポップ・ファミリー/Animal Pop Family(ダンサー／インドネシア・ジャカルタ在住)

クイック/QUICK(ダンサー・振付家／京都在住)

ディー・ジェー シン/DJ \$HIN(DJ／大阪在住)

アニマル・ポップとは、インドネシアのパプア地方の民俗舞踊とヒップホップを、振付家ジェコ・シオンボがハイブリッドに融合し編み出したスタイルである。現在はジャカルタを中心にアニマル・ポップ・ファミリーと呼ばれるダンサー達が席卷している。そのファミリーより来たる刺客を向かえ撃つのはMuDAを牽引するクイック(元・一撃)。身体や感覚を極限にまで突き詰めたその行為の連鎖はヒップホップから独自の変容を遂げ、圧倒的なオリジナリティを見せる。「ダンス・バトル一本勝負」の刻一刻を仕切るのは、現代の楽器・ターンテーブルを縦横無尽に操るDJ \$HIN。

【展示プログラム詳細／スケジュール】

パフォーマンス参加アーティストに加え、前回の当フェスティバルに参加したチョイ・カファイ、新たにドットアーキテクトスを迎えて展覧会を開催し、パフォーマンスと個々のアーティストの表現を繋ぐ回路として、フェスティバルをお楽しみいただきます。

会期：2014年2月1日(土)～3月2日(日)12:00-19:00 ※月曜休館

会場：アートエリア B1(大阪市北区中之島)※入場無料

出展作家	垣尾 優 / Masaru Kakio (ダンサー・振付家) コンタクト・ゴンゾ / contact Gonzo (パフォーマンス・グループ) ジュン・グエン=ハツシバ / Jun Nguyen-Hatsushiba (現代美術家) 曾田 朋子 / Tomoko Soda (造形作家) ドットアーキテクトス / dot architects(建築／大阪在住) チョイ・カファイ / Choy Ka Fai(アーティスト／シンガポール在住) 西光 祐輔 / Yusuke Nishimitsu (写真家)
------	--

* 参加アーティストは、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

[ディレクター・ノート]

私たちの住処はうごめき、また日々生成される。
(それとも私の体がグログロするからそう見える?)

My Home is Shivering and Changing (or is it Me and my Body wriggling?)

日本にはたくさんの木造建築がある、住んでみると分かるが木で出来た家は呼吸がしやすい。
建物自体が呼吸をしているからだ。
訪れた人たちは、ある種のノスタルジーを超えて無意識に身体を緩める。
日本の都会でも探してみるとそういう物件はたくさんある。
バラしてみると分かるが、土壁の奥から1945年の新聞紙が出てきたりすることもある。

一方で、鉄筋とコンクリートで出来たマンションも日々たくさん建てられ、
実際にたくさんの方が暮らしている。
オートロックがあり、新しければ災害にも強い。
変わったデザインでなければ違う街に住んでも、
似たようなレイアウトの部屋にまた住むことが出来る。
ニュータウンなどは街ごとデザインされている。
素材やデザインの違いは私たちの日々の生活、考え方、動き方、それぞれに決定的な影響を与える。
そこで生まれ育った子供ならなおさらだ。
例えばカーテンは買うことも出来るし、作ることも出来る。

私たちはどこまでその選択をしているのだろうか。もしくは選択を出来る余地を残しているのか。
またその事が、アジア圏における現代のダンスを扱うフェスティバルを行う事とどう関わるのか。
そういうところから考え始めた。

同じ頃、シンガポールで知り合った男は不動産業を営んでいた。
出会った頃は雑居ビルの一室で、凶太袋に詰め込んだブランドものの服を
それぞれ10\$前後で売りさばっていた。
彼は船で近郊の海域をまわり、干シアワビなどの海産物や燃料を扱いつつ、
そういった服を副業的に輸送していた。
日本で売れば一万円前後はしそうなものが大量に床に転がっている。
では私たちは日本で何を見ているのか。
船が揺れる、ということをしつくりと想像してみるの大切なことのように思う。
物だけでなく、考え方や、信じ方、様々な技法や言葉、そういったものも同じく運ばれてくる。
こういう男が日々運んでいるのかもしれない。

ここ数年で、東京から熊本に引っ越した知り合いがいる。
一方、随分と前に、熊本から大阪に出てきた知り合いもいる。
それぞれ別の理由によって行われたこの移動の交差点はどのようなところに位置するのか。

同じ頃、マニラではツインペダルのドラムセットを組んでライブの準備をしているドラマーがいた。
1980年生まれで、当然のようにメタリカやナパーム・デスなどを聴いて育ち、兄弟とバンドを組んだ。
分厚い音を、連打したいと考えている。
「ツインペダル」という新しい発明の由来と、その広まり方にはどのような特徴が指摘できるか。
果たして、音やスタイルだけの問題だろうか。

連絡が取れなくなったロッテルダムの子は船で渡ってきたベトナム人の父親の作る飯を題材に作品を作り、同じく連絡が全く取れないハンブルグにいるはずのアリフはマレーシアにいる母親がいかに黒魔術に詳しいかを話してくれた。

二人に共通する事は「移動をした。」ということだ。あるいは移動せざるを得なかったというべきか。

近所で、延々とミシンを動かして丸く立体的な作品を作っている友人がいる。

没頭し目がみえにくくなったり、トリップしたりすると話してくれた。

伝統的な技法を学んだが、あらたに独自に開発した技法で、糸を紡ぐことから始めて、形にする。

その布の塊は、水を汲めたりもする。

身体がどんどん変わっていく。

日々、速度やバランスが変わる。

怪我をしたり、治ったりする。

それにより、世界の見え方も変わる。

タイの街のはずれで家と劇場を作ろうとしている友人は、

エアコンを使いたくないという理由で建物の風の通り道を考えていた。

別の日には、チベットの暫定政府と呼ばれるところに電話をした。

文化担当官について欲しいと伝えと、彼女は昼飯に出たと答えられた。

この土地から派生した宗教が日本にどのような人々によって伝わったのかと、

そのルートや方法を想像しながら、

今日の一般的なチベットの昼ご飯はどんなものか考えていた。

アジア圏の厨房を支配する、化学調味料はチベットにまで届いているのかを想像していた。

自分が旅をしたアジアの国々は大体そうだった。

かけ直すと彼女は、私たちの土地には仏教に根ざした伝統文化があると手短かに、忙しそうに話してくれた。

話し終わった後に、コンテンポラリー・アートと呼ばれる状態のものが必要となる条件について

新しく引っ越したマンションで考えた。

それは都市的な、あるいは自然発生的なものなのだろうか。

なぜ、新しく、異なるものが、今日必要となるのか。

当然と見えることが当然でなかったり、

全く異なる地域、異なる時代で同じことを考えていたりする。

様々な状況を、人の意思が乗り越える。

向こうを見たいと思う気持ちや、今をどうにかしたいという気持ちにより、いろいろな技術が生まれる。

また、人々の様々な所作、日々に生み出すものからそういった断片を確認することが出来る。

このフェスティバルは、海を渡って来る今日の人たちに出会い、そのような断片を垣間見る機会としたい。

4作品全てが共同作業による新作です。

プログラム・ディレクター 塚原 悠也 / Yuya Tsukahara

○ アーティスト・プロフィール:A プログラム

「岡田利規 × 曾田朋子 × Pichet Klunchun」



photo: Nattapol Meechart

Pichet Klunchun (ピチエ・クランチェン)

ダンサー・振付家。バンコク/タイ在住。タイ古典舞踊劇「コーン」の精神と体系を現代の感性で再生させ、国内外から高く評価されている。アジア、北アメリカ、ヨーロッパ等の舞台芸術プログラムに参加し国際的に活躍。また、豊富な国際経験を元にタイ古典舞踊を学ぶ若手のダンサー育成と純粋な創作の場を持つことを目指し、2004年「ピチエ・クランチェン ダンスカンパニー」を設立。08年、「Routes」が、ヨーロッパ文化財団より、多文化社会において、他者への理解を深める活動を行うアーティストへ与えられる「ECF Princess Margriet Award」を受賞。12年にはフランス文化省「Chevalier of the French Arts and Literature Order」を受賞。



岡田 利規 (Toshiki Okada)

1973年 横浜生まれ。演劇作家／小説家／演劇カンパニーチエルフィッチュ主宰。従来の演劇概念を覆すとみなされ国内外で注目される。『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞受賞。デビュー小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』を新潮社より発表、第二回大江健三郎賞受賞。2012年より岸田國士戯曲賞審査員を務め、13年『遊行ー変形していくための演劇論』を河出書房新社より刊行。



曾田 朋子 (Tomoko Soda)

造形作家。1972年大阪府生まれ。ミシンで糸を縫い固める方法で立体作品を制作。言葉だけでわかりたがるアタマにピットリはまらないモノをつくる。1999年より大阪・京都で展覧会を行う。2007年 スパイラル(東京)のSICFにてスパイラル奨励賞受賞。12年 大阪の自分のアトリエミヤマミシンにて、作品の展示とワークショップ「つくるためのつくらない練習・用途を忘れるワークショップ」開催。

写真:高嶋清俊

「contact Gonzo × Skychurch × 西光祐輔」



contact Gonzo (コンタクト・ゴンゾ)

パフォーマンス・グループ。2006年結成。contact Gonzoとは、集団の、そして方法論の名称、つまりローファイなスパークである。肉体の衝突を起点とする独自の牧歌的崇高論を構築し、パフォーマンス作品や、映像、写真作品を制作。その背後には山がある。現在、事務所を自分たちで作りながら、そのスペースで時速百キロで飛ぶ果物を受ける肉体を観察したり、耳を澄ましたりしている。メンバーは個々においてもそれぞれの分野で作品を発表、もしくは料理や読書等をしている。セゾン文化財団助成対象アーティスト。



Skychurch(スカイチャーチ)

デラクルーズ兄弟によって結成された、ギター・ベース・ドラムの3ピースバンド。アメリカ発のメタル、ハードコアなどに強い影響を受けつつ、それを身体的に昇華しフィリピンを拠点に活動。フィリピンのハード・コアバンドのパイオニアとして活躍している。



西光 祐輔 (Yusuke Nishimitsu)

写真家・アーティスト。1976年和歌山県新宮市生まれ。街、動物、風景などの異なるイメージを配置し、様々な場所で起こっている同時多発的イメージをテーマに作品を発表。主な活動「NEW GAMES」AD&A gallery(大阪)など個展、グループ展多数。2010年自主レーベル『approach』立ち上げ。同年、飯川雄大、梅佳代、金氏徹平、川島小鳥、小橋陽介、パトリック・ツイ、原田拓哉と共にアーティストユニット「ハジメテン」結成。12年7月作品集「mound」刊行。梅田哲也展覧会カタログ「大きなことを小さくみせる」写真、テキスト担当。12年NAMURA ART MEETING '04-'34 VOL.4 臨界の創造論などイベント参加多数。13年国東アートプロジェクト参加。その他、PVなども手がける。

アーティスト・プロフィール: Bプログラム

「垣尾優×ジュン・グエン=ハツシバ×松本雄吉」



垣尾優 (Masaru Kakio)

ダンサー・振付家。1973年生。在学中に図書館で見たジャクソン・ポロックの絵画、町の本屋で立ち読みした美術雑誌の大野一雄の写真がダンスを始めるきっかけとなる。2004年～現在まで、岡登志子主催Ensemble Sonne作品にゲスト出演。06～09年、contact Gonzoとして活動。11年～現在まで The pursuit of new possibility project (砂連尾理×Hyslom×垣尾優)。12年、維新派「夕顔のはな、しろきゆふぐれ」に出演。『吉原治良記念アートプロジェクト2008』吉原治良賞受賞。



“The Master and the Slave: Inujima Monogatari” 2013
single channel video installation
Courtesy: the artist / Mizuma Art Gallery, Tokyo

ジュン・グエン=ハツシバ (Jun Nguyen-Hatsushiba)

1968年東京にて日本人の母とベトナム人の父の間に生まれ、幼少時代を日本で過ごし、アメリカで教育を受ける。現在、ホーチミン市在住。2001年より難民や社会的少数派をテーマに取り上げた“メモリアルプロジェクト”シリーズを発表し、国際的に注目を浴びる。ビエンナーレ・トリエンナーレ国際展に多数参加。07年より始めた「Breathing is Free: 12,756.3」では、地球の直径である12,756.3kmを実際に走る事で世界中の難民問題を、身体を使って体験するという試みを作品にし、現在もプロジェクト継続中。13年岡山県犬島での家プロジェクトで最新作「The Master and the Slave: Inujima Monogatari」を発表。



松本 雄吉 (Yukichi Matsumoto)

維新派主宰。1946年熊本県天草生まれ。大阪教育大学で美術を専攻。1970年維新派を結成、独自のスタイルは「チャンチャン☆オペラ」と呼ばれる。場所との交感を大切に、劇場を劇団員自らの手で建設する。代表作に、琵琶湖上に作ったくびわ湖水上舞台>が大きな話題となった「呼吸機械」、瀬戸内の多島海を借景とした「MAREBITO」など。オセアニア・ヨーロッパ・中南米など海外での公演も多数。2009年朝日舞台芸術賞・アーティスト賞、芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2011年紫綬褒章受章。

「アニマルポップ・ファミリー×QUICK×DJ \$HIN」



アニマル・ポップ・ファミリー (Animal Pop Family)

アニマル・ポップとは、インドネシアのパプア地方での民俗舞踊とヒップホップを振付家ジェコ・シオンボがハイブリッドに融合させ編み出したダンススタイル。ジャカルタを中心に約200名以上のファミリーがいると言われている。最近では、世界各国のフェスティバルや招聘され、2013年「愛知トリエンナーレ」にて初のカンパニー日本公演を敢行。



Koji Tsujimura/おおさかカンヴァス 2013
「MuDA 特区」

QUICK (クイック)

1982年京都府生まれ。ダンサー、演出家、振付家、MuDA代表。97年 ブレイクダンスをベースに踊り始める。98年ブレイクダンスチーム「一撃」結成。ストリートダンス世界最大の祭典「BATTLE OF THE YEAR FINAL 2005 (ドイツ)」での準優勝、BEST SHOW 受賞など、国内外数々の大会で受賞、入賞を飾る。国内外各地でゲストダンサーとしても活躍。2007年演出家飯田茂実らとともにダンスコミュニティ「e-dance」結成。日本、スペイン、イタリアの7都市で作品を発表。全ての作品にて出演、振付チーフを務める。10年パフォーマンスグループ「MuDA」結成。



DJ \$HIN

DJ/大阪在住。10歳よりブレイクダンスを始め、後にDJに目覚め、プロとして活動を開始。西日本チャンピオンを4度経験する等、数々のタイトルを奪取。日本DJ界のパイオニア的存在。1999年DMC日本代表。2013年「Shing02+DJ \$HIN」名義でのフルアルバムを発表。

展示プログラム・参加アーティスト:

垣尾 優 / Masaru Kakio (ダンサー・振付家)

コンタクト・ゴンゾ / contact Gonzo (パフォーマンス・グループ)

ジュン・グエン=ハツシバ / Jun Nguyen- Hatsushiba (現代美術家)

曾田 朋子 / Tomoko Soda (造形作家)

ドットアーキテクト / dot architects (建築 / 大阪在住)

チョイ・カファイ / Choy Ka Fai (アーティスト / シンガポール在住)

西光 祐輔 / Yusuke Nishimitsu (写真家・アーティスト)



チョイ・カファイ (Choy Ka Fai)

アーティスト、パフォーマンスメーカー。シンガポール在住。ビジュアルアート、ダンス、演劇の領域を横断する作品を数多く手がけるマルチメディア・アーティスト。触ることの出来ない記憶や感情によって生まれる力が人間の身体とどう結びつくのかを探ることを創作の起点とし、アート、デザイン、テクノロジーの交差的表現へと集約させる独自の手法で、身体とメディアが交錯する世界を表現する。



ドットアーキテクト (dot architects)

建築・家成俊勝、赤代武志により2004年共同設立。大阪・北加賀屋を拠点に活動。建築設計だけに留まらず、現場施工、アートプロジェクト、さまざまな企画にもかかわる。



Dance Box

Press Release 2013.11.22

KOBE-Asia Contemporary Dance Festival #03

広報に関するお問合せ：

本フェスティバルについて取材・広報等のお問い合わせは下記担当者までお願いいたします。

広報担当：大泉愛子・青嶋絢

広報担当メール：pr_mail@db-dancebox.org

フェスティバルに関するお問合せ：

主催：NPO 法人 DANCE BOX

問合せ先：〒653-0041 神戸市長田区久保町6丁目1番 アスタくにつか4番館4階

TEL:078-646-7044 / FAX:078-646-7045

Dance Box代表メール：mail@db-dancebox.org（制作担当：横堀ふみ）